

SDゼミナール修了生の声

SDゼミナールは2019年で5年目を迎えました。2019年度修了生の辻野さんと久米さんにSDゼミナールの受講を通じて感じたことをお話しいただきました。

辻野 皓一郎 さん

SDゼミナール5期生（2019年修了）／大谷大学 学生支援部キャリアセンター

修了レポート：テーマ「入試広報部門と進路就職部門が一体となった大学の魅力発信」

【経 歴】

前職：公務員系専修学校（教員）

2015年～ 大谷大学 学生支援部キャリアセンター 就職進路指導担当

事務局：SDゼミナールを受講しようと思ったきっかけは何ですか。

辻野さん：大学から声を掛けられたのかもしれませんが、SDゼミナールを先に受講されている先輩方から色々話は聞いておりました。私は転職組ということもあって、他大学の状況を知ることができ、また、大学業界全体の動きを自分の大学から見るだけでなく、大学の外から見たとき、どのように感じ、どのように考えられるのか、客観的な思考を身に付けたいと思いました。大学から声を掛けてもらったときは、ぜひ受講したいと決めました。



事務局：最も印象に残っている講義や出来事がありますか。

辻野さん：京都文教大学 学長企画部 村山さんの「アカデミック・リテラシーと修了レポート」と、当時本学の教授だった荒瀬克己先生の「大学と高大連携・高大接続」の講義が印象に残っています。同じ大学職員という立場にある村山さんの講義と、同じ大学の教員が学外でどのような視点で活動されているか知ることができた荒瀬先生の講義は、自分と近い所で仕事されている中で、自大学の外に意識を向けていらっしゃるという点で、共通して特に興味深かったです。村山さんの講義で印象に残っているのは「学ぶ姿勢」です。業務の専門的な知識や必要な事務処理能力・技術は、当然身に付けるべきスキルですが、更にステップアップした、大学業界全体の動きを意識しながら学びを深めること、またそれを業務へ落とし込む手法・考え方を学ぶことができたのが特に印象に残っています。荒瀬先生の講義は、大学のブランディングに強く繋がっていて、自大学の先生のお考えを外部にいる環境で聞いたことが勉強になりました。



▲SDゼミナール受講中の辻野さん

事務局：学びがどのように生かされているか、受講後の変化はありましたか。

辻野さん：初めにテーマを決め、講義の受講、公開プレゼンテーションを経て、修了レポートを書くという一連のカリキュラムを通して、私のテーマとしていた学生のキャリアについて、受講前とは違う視点で考えることができました。それまでは、学生を送り出す出口管理の重要性を意識して仕事してきましたが、その「出口」を一つの広報材料として提供でき、大学のブランドとして打ち出す意義があるという新たな視点を得られたのは大きな収穫でした。また、修了レポートの執筆では、根拠を調べる癖ができました。そういう意識を持って仕事に取り組むようになったのは、大きな強みとなっています。今、仕事に結びついていることでは、卒業生の就職先の公開の方法を他大学と比較することで、新たに「出口」を「見える化」しています。これは、受験を考えている高校生へ本学の強みのアピールになりますし、新入生への情報提供にも繋がると考えています。こういったところで、SDゼミナールで学んだ経験が活かされると感じています。

事務局：他大学の職員と一緒に学ぶことについて、どのような関係性を築けましたか。

辻野さん：私の年齢が他の受講生より上ということもあって、5期生のなかでは年長的な存在で接してもらったように感じます。5期生は男性が多かったのですが、全員仲良くなれて、何か聞きたいことがあれば、LINEグループで相談できる関係性を築けました。特に今は、このコロナ禍の中でリアルタイムに他大学の方と情報交換ができて有難いです。最近も、業務のことで他大学の状況をどうなっているかLINEグループに投稿すると、すぐに情報提供いただけるとともに、関東の大学の取り組みなどを紹介していただきました。気軽に質問・相談できる方が他大学にいるというのは、他の業界では珍しいですし、貴重な関係性だと思います。



▲公開プレゼンテーション発表中の辻野さん



▲2019年度SDゼミナール生の皆さん

事務局：土曜日の受講にあたり、仕事とプライベートとのバランスはいかがですか。

辻野さん：本学は、基本土曜日は休みですが、土曜日に出勤せざるを得ない仕事があるときは、調整して、受講後に職場へ戻ったりしていました。所属部署内で協力してくれることもあり、仕事とのバランスという面では、特に問題はありませんでした。プライベートとの両立という面では、自分の趣味の時間が少し削られることぐらいでした。

事務局：最後に受講を考えている職員にメッセージをお願いします。

辻野さん：新卒で入職された方であれば、20代後半位、入職5～6年目に手を挙げて参加されることをお勧めします。転職組の方や勤続年数が長い方から他大学の情報を吸収することができるので、飛躍的に実力が伸びると思います。転職組の方は、大学人としての感覚を早く身に付けるためにも、入職3～5年目には自ら手を挙げて早くの受講をお勧めします。私は、本学に転職してきて4年目で声を掛けていただきましたが、他業界から大学へ転職した私にとって、“同業他社”である大学同士が協力していることに対する不思議な感覚と同時に、大きなメリットに気づくことができました。これは、SDゼミナールを通して一番驚いたことで、大学同士協力し合うメリットがどれほど大きいかをぜひ体験して業務の幅を広げていただきたいと思います。

久米 勘四郎 さん

SDゼミナール5期生（2019年度修了）／佛教大学 施設部施設課

修了レポート：テーマ「大学職員の意欲と成長を促すSDの展開について」

【経 歴】

2010年4月～2014年3月 佛教大学 通信教育部学務部学務課

生涯学習部通信学務課（※2012年より名称変更）

2014年4月～2018年9月

学生支援部学生支援課

2018年10月～

施設部施設課

事務局：SDゼミナールを受講しようと思ったきっかけは何ですか。

久米さん：これまで、本学の職員は毎年SDゼミナールに参加しており、学内のSD研修の中で実際に受講された先輩方の研修成果のプレゼンを聴く機会があり、SDゼミナールの様子や取り組みの内容については少なからず存じていました。受講のきっかけは、かねてより大学職員としての知見を深め、より創造的な仕事をしていきたいという思いを抱いていたことから、一つのきっかけになればと、おもいきってチャレンジしてみようと思いました。また、所属部署の上司がSDゼミナールや大学アドミニストレータ研修（SDゼミナールの前身）の修了生でもあり、その上司たちから背中を押していただいたことも大きかったです。



▲SDゼミナール受講中の久米さん

事務局：最も印象に残っている講義や出来事がありますか。

久米さん：吉武博通先生（公立大学法人首都大学東京 理事／筑波大学 名誉教授）の「大学の戦略とリーダーシップ」はとても聴きごたえのある講義でした。大学が社会や地域にこれから果たしていくべき役割や、その実現に向けたこれからの大学の変革に必要な要素について学ぶことがたくさんありました。また、新しい時代における大学職員としての働き方や仕事への向き合い方を見つめなおすうえでも、私にとってはたくさんのヒントが詰まっていた講義でした。



事務局：学びがどのように活かされているか、受講後の変化はありましたか。

久米さん：受講後は、高等教育に関して発信される多種多様な情報について、これまで以上にアンテナを張ることを自然と意識づけられたと感じています。得られた情報を生かすべく、現場での仕事を進めていくうえで、学内にある情報や単なる慣例での判断になりがちな部分に関して、たとえば最近の私立大学全体としての動向や他大学や地域レベルでの動向はどうなのか、といった点を判断材料の一つとして積極的に具申するなど、職場にアウトプットするよう心掛けています。



▲公開プレゼンテーション発表中の久米さん

事務局：他大学の職員と一緒に学ぶことについて、どのような関係性を築けられましたか。

久米さん：共に受講させていただいた各大学の皆様とSDゼミナールで出会えたことは、とても大きな財産になったと感じています。比較的長期間での本研修において、一つの目的を共有する者同士、毎週土曜日に顔を合わせて気さくに接することができ、講義中のワークショップやグループディスカッションなどを重ねていく中でより交流を深められたことで、修了後の現在も気軽に情報交換やちょっとした相談などができるような関係性を築けたことは、仕事をしていくうえでとても良い刺激になっています。このような大学職員間での強固なネットワークを築けることは、SDゼミナールにおける一番の醍醐味ではないかと思います。

事務局：土曜日の受講にあたり、仕事との両立はできましたか。

久米さん：私が所属する部署は、学内行事等がない限り土曜日は基本的に閉室していることと、時期的にも学習に臨みやすい環境でした。毎週の講義前の事前課題の提出や、予習のためのテキストや資料の読み込み、公開プレゼンテーションに向けた準備や修了レポートの作成など、日々の仕事の合間をぬって時間をつくることは難しかったですが、その分やり遂げた時の達成感や充実感がありましたし、なによりも受講生皆で楽しく取り組むことができました。

事務局：最後に受講を考えている職員にメッセージをお願いします。

久米さん：SDゼミナールは、これまで自身が大学の職務を通して培ってきた知識や経験などを補完する手助けをしてくれる有意義な機会だと思います。SDゼミナールを通して出会う仲間達と苦楽を共にし、その過程で得られる大学職員としてのモチベーションの向上や、学べることの喜び、一つの目標を達成した時に得られる達成感など、ぜひ一人でも多くの方に味わっていただきたいと思います。